

式 辞

卒業生の皆様、本日は誠にありがとうございます。

教職員一同および在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日まで、みなさんを支え励ましてこられたご家族やご親族の方々には、心から感謝とお祝いを申し上げます。さらに、本学の教職員の皆様には学長として厚くお礼申し上げます。

今日、あなたがたは大学での旅の終わりを迎え、4月から新たな社会に向かって歩み始めます。私達は皆さんを社会に出すことに自信をもっており、あなた達が必ず立派な社会人として社会に貢献できるものと確信しています。あなたがたは、この4年間、努力を惜しまずに前進し、そして、今日の荣誉を称えるにふさわしい成長を遂げたと思われるからです。人生の中で、私達の脳が思春期爆発の状況にある20歳前後の記憶が一番残るといわれていますので、本学でのこの4年間は皆さんの記憶に長く残るでしょう。

もちろん、この日に至るまでの道のりは、あなたがた一人ひとりの努力だけではなく、家族や友人、教職員、そして多くの支援者たちの支援があつてこそ可能となりました。彼らの支えに感謝し、今後は支えてくれた方々への期待に応えるために、さらなる成長を続けてください。

さて、あなた達を迎えるこれからの社会は決して生易しいものではありません。国内、県内では少子高齢化が加速しており、様々なところで人手不足問題は深刻化しています。この少子化が進めば、どのような暮らしになるかを想像してください。労働力不足や消費者不足により、生産と消費のいずれもが減少しますので、国内、県内経済の規模は縮小し、国際競争力は低下します。医療・介護費の増大など社会保障制度や年金の縮小、つまり日本経済は財政危機となり、地方自治体の経済は維持できなくなるかもしれません。一方で、世界に目を向けると、地球の温暖化、国家間の戦争、世界の二極化など不安な要素がたくさんあります。その中でも、人工知能（AI）やロボット、自動走行車などの技術革命は益々加速的に進歩するでしょう。

私達は、他国文化を理解し、世界は一つ、あるいは地球に住む人類は運命共同体的な考えを持ち、相互に依存し合う世界をつくらなければなりません。「宮崎と世界を結ぶ架け橋、宮崎国際大学」という宮崎国際大学のスローガンは、そのような思いが込められており、ぜひ皆さんが、その意識を持って課題解決に取り組んでいただきたいと思います。

話は変わりますが、私は皆さんに幸福な人生を送っていただきたいと願っています。幸福の価値観は皆さんで異なることは承知しています。ただ、私が感じる幸福とは、物質的な豊かさや金銭的豊かさの幸福でもなく、社会的な地位の幸福でもありません。そのようなものは身につけた衣装と同じで、脱いでしまえば、あるいは失ってしまえば、ただの人、不幸な人になってしまいます。でも人間の内面的な充実感や心地よい人間関係の幸福さはなかなか失うものではありません。ぜひ社会や家庭で、心地よい人間関係と心地よい充実感を持ち続けてください。

さて、最後になりますが、本日、皆さんへお渡しする卒業証書は、皆さんを社会に出し

てもやっていけることを証明する証書です。ともすれば、人生での勉強は、小中高、そして大学で終わりと思われる方もいるかもしれませんが。大学で学んだ主体的・能動的学習法は社会で自らが勉強する方法や姿勢を教えたものであり、批判的思考力は、社会の中で客観的に正しく判断し決定する能力を教えたものです。これらは、社会に出ても継続しなければ意味をなしません。どのような職場でも、ぜひ勉強を続け、学びの精神を維持し続けてください。そして、挑戦こそ、あなた達に与えられた特権だと思って、ぜひ健康でがんばってください。

最後に、繰り返しになりますが、この大学の一員として、私はあなたがたに最高の祝福を送ります。今日の卒業式はあなたがたの人生における素晴らしい節目です。これからの人生が、さらなる成功と幸福に満ちたものであることを心から願っています。

本日は誠におめでとうございます。

令和6年3月13日

宮崎国際大学学長 村上 昇